

## 平成17年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 第5部・家庭教育講座

氏 名 前田英雄

プロジェクトの名称	地域連携型家庭科学習の開発	配分 予算額	569,000 円
プロジェクトの概要	<p>新学習指導要領により、家庭科では家庭・地域社会との連携をふまえた新たな教科課程の創造ならびに新しい教材の研究と開発が学校現場の重要な教育活動として加わった。このような中で家庭科の各専門領域から地域に関わる基礎研究や教材開発研究が教育現場には急務である。</p> <p>本プロジェクトでは、徳島県の小・中・高等学校家庭科教員と連携を深め、支援するための専門的知識・技術や課題解決学習に結びつく教材開発を行った。これらの教材を地域連携型家庭科学習に実践するため研修会を開催した。研修会では、地域の家庭科教員へ教材の紹介、実習や大学教員との情報交換を行うことにより問題意識を共有した。</p> <p>本プロジェクトの実施内容は下記の通りであり、詳細は概要に記した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域教材の基礎的研究や教材開発(8月～11月)</li> <li>2) 小・中・高の家庭科教員を対象とした研修会の開催(12月) <ol style="list-style-type: none"> <li>A: これからの家庭科学習における地域連携を考える</li> <li>B: 男女共同参画社会と家庭科</li> <li>C: 住まいの地域性と学習教材</li> <li>D: 消費者契約学習についての授業研究</li> <li>E: 阿波和紙を用いた草木染めと学習開発</li> <li>F: 簡単ソバ打ち体験</li> </ol> </li> <li>3) 家庭科のHPの更新(3月)</li> <li>4) メイリングリストによる家庭科教育情報の提供</li> </ol>		
成果の概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家庭科教員を対象とした「家庭科教員支援ネットワーク」研修会(12月26日)を開催し、県内および県外の21名(小学校:6名, 中学校:6名, 高等学校8名, 大学1名)の参加者があった。</li> <p>家庭科教育分野では、2005年7月に徳島県小・中学校家庭科担当教員対象に調査を行い、今後の家庭科学習における地域連携に関する要望をまとめた。住居分野では、四国地方における伝統民家の壁材・土佐漆喰を題材とし、1) 優れた地域の壁材の特色を知り、健康建材について考える、2) 地域に根ざした伝統民家の理解(水切り瓦)、3) 住教育教材として視聴覚教材を紹介し、伝統技法やデザインの理解につなげた。被服分野では、徳島の伝統的な産業である阿波和紙の原料の楮を用いて、身近な天然植物(サザンカの花びら、赤シソ)による染色を行うとともに、はがきサイズの紙漉きを実習した。家庭経営分野では、男女共同参画社会の推進に考慮した家庭科をめざして、家庭科教員のジェンダー観チェックを行い、家庭科としてできることを話し合った。また、中高校生を対象にした、約束と契約の違いを学習する授業、およびみなし契約と消費者の権利について学習する授業を行った。食物分野では、地域の特産物である祖谷地方で獲れるソバ粉を使用して簡単に打てる十割りソバ打ちの教具の作成とソバ打ち実習を行った。</p> <p>研修に参加した教員にアンケート調査を実施した結果、本プロジェクトで実施した地域連携型家庭科学習の開発とそれから得られた教材の現場への還元は好意的に受け入れられ、今後も継続的に研修会の開催を要望された。</p> <li>2) 家庭科のホームページ(HP)の更新を行い、家庭科教材・資料コーナー等、教育現場への情報を共有した。また、HPには大学院の募集についても検討した。</li> <li>3) 最新の家庭科情報、特に消費者教育に関する内容をメイリングリストに登録している家庭科教員に通年にわたり配信した。</li> </ol>		

- (注) 1. 箇条書き等により簡明に記入すること。  
2. 概要については、800字程度にまとめること。  
3. 研究協力者として院生等が参加している場合、院生等の報告書があれば添付すること。  
4. なるべくパソコン等で作成願います。